

## 東京富士美術館所蔵名品展 日本絵画の精華

会 期 2014年11月15日(土)～2015年1月18日(日)

高崎市タワー美術館では、2001年の開館以降、優れた日本画コレクションを有する美術館の所蔵名品展を開催してきましたが、今回は、西洋絵画のコレクションで著名な東京富士美術館の知られざる日本美術コレクションを紹介します。1983年に東京・八王子に開館した東京富士美術館は、古今東西の絵画、彫刻、工芸、写真など、国内外の美術のエキスを集めた約30,000点の所蔵品を誇る有数の美術館です。その日本美術コレクションは、中世・近世絵画から浮世絵、近代日本画、陶磁、漆工、武具、刀剣、書跡等々、日本美術の歴史を余すことなく網羅しますが、とくに江戸時代の近世絵画と、明治時代から昭和時代に至る近代日本画には名品が多く、日本絵画の良さを堪能できる貴重な作品群です。近世絵画からは、充実した江戸時代前期の屏風作品を中心に、幕府御用絵師である狩野派の《洛中洛外図屏風》、《吉野川龍田川屏風》、“武蔵野は月の入るべき嶺もなし尾花が末にかかる白雲”（続古今和歌集）といった古歌の歌意を視覚化した《武蔵野図屏風》、さらには豊かな装飾性を特徴とした琳派作品など、近世における様式美を堪能できる作品群を、近代日本画では、その黎明期を支えた横山大観、竹内栖鳳、菱田春草、下村観山や、美人画の大家である上村松園、鏑木清方、ほか、誰もが名を知る巨匠の作品を紹介します。また、絵画以外に、当市とゆかりの深い小栗上野介忠順が所用した甲冑が特別出品となります。

本展覧会では、近世絵画11点（うち、9点が屏風作品）、近代日本画34点、甲冑1点、計46点の優品でその日本美術コレクションを紹介し、日本の伝統技法による絵画の装飾美、様式美をお楽しみいただきます。

会 場 高崎市タワー美術館（〒370-0841 高崎市栄町3-23 電話 027-330-3773）

開 館 時 間 午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）

金曜日のみ 午前10時～午後8時（入館は午後7時30分まで）

休 館 日 毎週月曜日（祝日の場合は開館し翌日休館）、祝日の翌日

会期中の休館日：11/17・25、12/1・8・15・22・24、12/28～1/5、1/13

観 覧 料 一般：800円（700円）、大学・高校生：400円（300円）

- （ ）内は20名以上の団体制引料金
- 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた方、および付き添いの方1名、65歳以上の方、中学生以下は無料となります

主 催 高崎市タワー美術館

企 画 協 力 東京富士美術館

後 援 朝日新聞前橋総局、産経新聞前橋支局、上毛新聞社、東京新聞前橋支局、毎日新聞前橋支局、読売新聞前橋支局、NHK前橋放送局、群馬テレビJ:COM群馬、エフエム群馬、ラジオ高崎

### 関連事業

- 学芸員による作品解説会 11/15、11/30、12/14、12/27、1/10 14:00～